



〈連載(217)〉

福岡県の離島航路のフェリーたち



大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田 良穂

9月中旬の1週間、国際会議「第25回国際試験水槽会議」(ITTC)に出席するため福岡に滞在することとなった。この国際会議は、世界の船舶試験水槽に関する技術に関するもので、3年ごとに開催されており、これまで日本では1960年の東京を最初に、神戸でも開催され、今回が3回目の日本開催である。日本の船舶試験水槽の関係者の総力を挙げての開催であり、全世界から260名余りの研究者が集まった。その中の技術委員会としては、抵抗、推進、耐航性、操縦性、海洋開発などの常設委員会と、それぞれの時代に必要なテーマを掲げた専門委員会からなっている。専門委員会としては、CFD、ポッド推進器、波浪中の復原性などがあり、それぞれの委員会から、前回の国際会議からの3年間における技術の進展、開発された新しい実験法の調査、試験法の標準化などについての報告があった。最終日には、リオデジャネイロで開催される次回国際会議に向けての各委員会の役割、新しい専門委員会の設立などの決定が行われた。

筆者は、新しい専門委員会として立ち上がった「高速船専門委員会」の委員長を拝

命し、主に多胴型高速船の研究の現状、実験法、用語の統一などの作業を取り仕切ることとなった。この委員会の委員には、オーストラリア、イギリス、ギリシア、ノルウェー、中国、クロアチア、ロシアからの9名の研究者が指名され、毎年2回程度の委員会を開催して作業をすることとなった。本誌読者におかれても新しい高速船の開発、高速船の新しい実験法などの情報があれば、ぜひご教示をいただければ幸いである。

さて、この国際会議の前後の土日、そして期間中についても朝夕には時間に余裕があるので、ぜひとも福岡周辺の内航客船との出会いをはたしたいと思った。「フェリー時刻表」で調べてみると、福岡県内だけでもかなりの数の離島航路があることが分かった。博多港を基点とする壱岐・対島航路、博多湾内の島々への航路、そして国際航路である釜山航路の船については、会場の福岡国際会議場の目の前にターミナルが集中しているので問題はないのだが、それ以外の離島航路の九州本土側の港は点在していて、会議の始まる前や、会議後の日没までの時間に、公共交通機関ではとても回れそ

うにない。そこで、自家用車で福岡まで行くことにした。

大阪南港から名門大洋フェリーの新門司行きのフェリーを利用した。同社は毎夕刻に2便を運航しているが、新しいフェリーの就航している第2便を利用することとした。この便は、南港を19時50分発で、翌朝8時には新門司に到着する。1人旅なので、お買い得の2等寝台を利用した。船は「フェリーきょうと2」だった。家で夕食を済ましてきたものの、レストランの様子を見るために、つまみを頼んでビールを1杯飲むことにした。カフェテリア式で、並んでいる料理の中から好きな皿をとるようになっており、九州名物の「ふく刺」と「明太子」を選んだ。結構の数の乗客がレストランを利用しており、席は満席に近い。昔のような「フェリーのレストランは高くて不味い」といったイメージはかなり払拭されているようだった。レストランのサービスもなかなか気持ちがよくて、好印象だった。

さて、福岡に到着して、まずは国際会議場の5階に上った。このフロアがITTCの会議場だった。この5階のベランダからは、博多港を眼下に見渡すことができ、船の写真撮影には絶好のポイントであった。左側には、壱岐・対島航路の九州郵船のフェリーやジェットフォイル、博多湾内航路の福岡市営の高速客船、レストラン船などが頻繁に出入りするのが見える。ユニークな船型で有名な、五島航路に就航する野母商船のフェリー「太古」もここからの発着だが、暗くなってから入港して、深夜に出港するので撮影はできなかった。そして、右手は

国際ターミナルで、釜山航路の大型フェリー「ニューかめりあ」が停泊しており、JR九州および未来高速の運航するジェットフォイルも頻繁に出入りしている。



ニューかめりあ

この国際会議場から車で西に15分ほど行った姪浜の渡船場からは、能古島への小型カーフェリー「フラワーのこ」と「レインボーのこ」が発着している。航路がわずか10分という距離なので、前後どちらにも走れる両頭船だ。ここから出るもう1つの航路は、40キロほど沖合いに浮かぶ孤島、小呂島（おろしま）に通う航路で、高速旅客船「ニューおろしま」が就航している。いずれも福岡市営船だ。



フラワーのこ

この姪浜からさらに西に40分ほど行くと、岐志漁港があり、そこから沖合いの姫島に39トンの旅客船「ひめしま」が就航している。運航するのは志摩町だ。



ひめしま



しんぐう



おおしま

さて、日を改めて、福岡市から北西に位置する3つの港にも出かけた。まず新宮港からは相島に町営の旅客船「しんぐう」が就航している。

新宮の北東に位置する、宗像市の神湊（このみなど）からは、沖合いの大島にカーフェリーと高速船が就航している。カーフェリーは194総トンの「おおしま」、高速船

は79トンの「しおかぜ」だ。

さらに東には、同じく宗像市の鐘崎漁港があり、その一画からは地島への渡船「ニューじのしま」（55総トン）が就航している。いずれも宗像市営船だ。



しおかぜ



ニューじのしま

このように、会議中に福岡県下の離島航路船をほぼ網羅的に調査することができた。大型船の就航する壱岐・対島航路を除くと、いずれの離島航路も市営または町営の渡船である。民間会社ではとても経営的に成り立たないということなのかもしれない。ただ、船は全般に比較的新しくて、格好もよく、メンテナンスもよいように思われた。過疎化の進む離島の足として大いに活躍してもらいたいと思った。